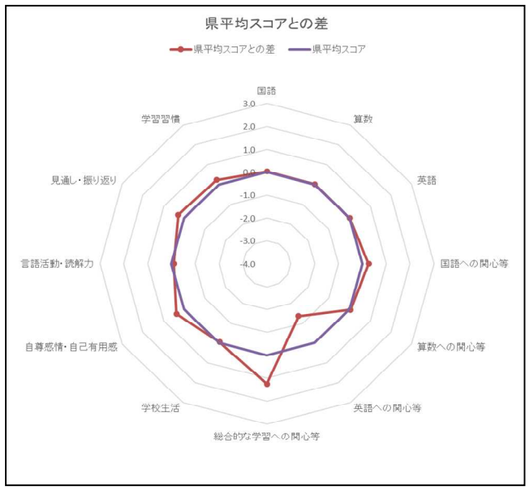
令和元年度　島根県学力調査結果及び分析・対策（松江市立古志原小学校）

（1）学力調査結果から見られた傾向

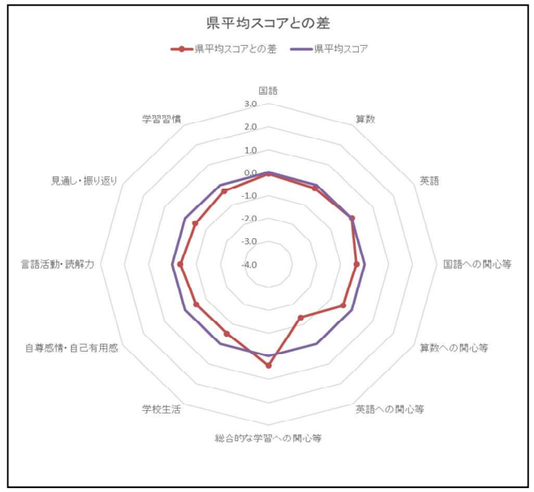
		成果と課題（○：成果、●：課題）	対策
5年	国語	○領域ごとに大きく結果の差が見られず、どの領域もおおむね県平均と同程度の結果が出ている。 ○回答形式による結果の差があまり見られず、記述式問題も無回答率が低く、意欲的に問題に取り組んでいる。 ●同音異義語の漢字を書く問題での正答率が低い。	・概ね理解できていることを強みととらえ、現在取り組んでいる語彙を増やすことに重点を置いた国語科を中心とした研究を推進していく。 ・同音異義語での正答率が低いので、漢字の持つ意味と言葉の意味を結び付けて考えるなどの機会を授業の中で持ったり毎月の漢字会の問題作りの工夫をしたりしたい。
	算数	○領域ごとに大きく結果の差が見られず、どの領域もおおむね県平均と同程度の結果が出ている。 ●後半の問題の無回答率が高いので、問題解決に時間がかかり、最後まで解答できていないと考えられる。 ●小数の乗法に関する問題の正答率が低い。	・概ね理解できていることを強みととらえ、現在取り組んでいる算数の授業、月に1回の計算会などを継続したい。 ・計算に時間のかかる傾向がある。時間を意識できるよう、朝の時間を使った繰り返し学習など取り組みを工夫する。 ・小数の計算は乗法も除法も苦手な傾向があり、復習の機会を多く持ちたい。
6年	国語	○「読む」の領域については、どの問題も県平均よりも高い結果が出ている。 ●漢字を書く問題での正答率が低く、無回答率が高い。 ●相手の発言の意図を踏まえて自分の意見を書く問題での正答率が低い。	・「読む」領域については概ね理解しているととらえ、引き続き言葉にこだわった指導を続けていく。 ・授業の中で、小テストや復習テストを計画的に取り入れ、既習の漢字の定着を図る。 ・新聞や図書を活用して、意見文を書く活動を計画的に設定するとともに、児童同士で意見文を発表し合ったり、出た意見について討論したりする活動も取り入れる。
	算数	○「量と測定」の領域については、県平均と同程度の結果が出ている。 ●分数の四則計算についての問題の正答率が低い。 ●比や割合についての問題の正答率が低い。	・分数の計算については、授業において通分や約分について復習し、問題演習の機会を多く設定する。 ・比や割合については、数量関係を整理するために、図をかいて考えるように指導を徹底していく。

（2）各学年・各教科の調査結果チャート

5年



6年



（参考）　平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	60	58
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生　107　人

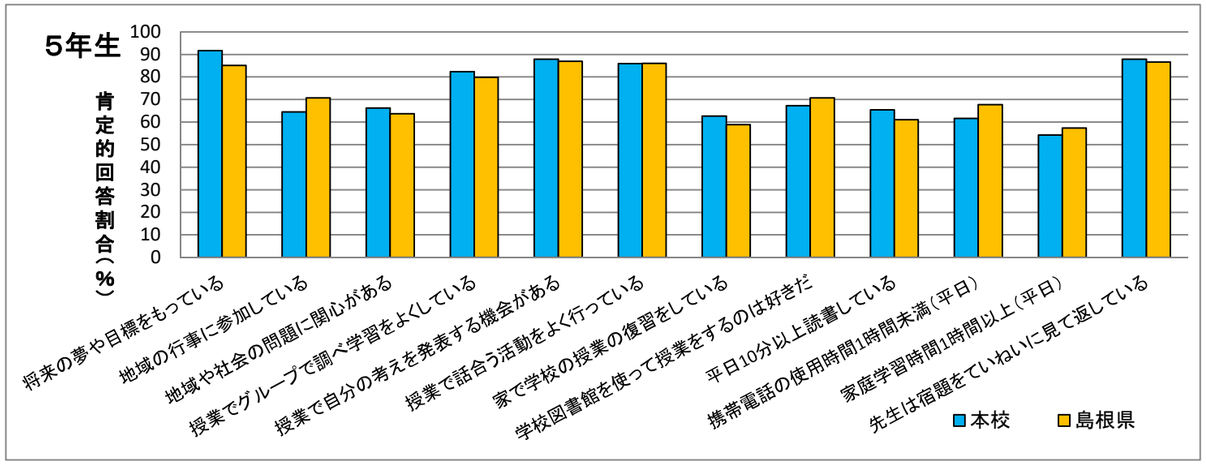
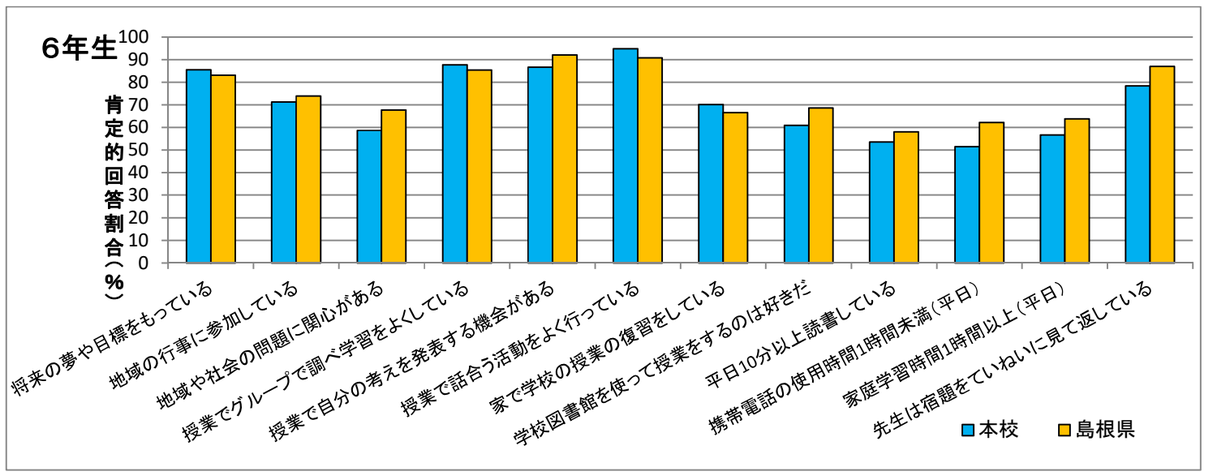
（参考）　平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	50	55
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生　97　人

各スコアの範囲は－4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

（3）生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題（○：成果、●：課題）	対策
5年	授業改善に関わる事項	○国語や算数の授業は概ね意欲的に取り組んでいる。 ○総合的な学習の時間に高い意欲をもち、自らの課題をもって解決に取り組む時間として機能している。 ●英語に関する意欲、理解が芳しくない。	・総合的な学習の時間の取り組みは本校の強みとして、学習内容や課題の持たせ方などの学習方法など、今後も継続していけるようにしたい。 ・英語に関しては子どもたちの興味・関心が高まり、さらなる理解につながるよう、授業の在り方を工夫していきたい。
	家庭学習に関わる事項	○家庭で計画的に学習すること、毎日の宿題をきちんとすること、復習をすることによく取り組んでいる。 ●休みの日に全く学習していない児童の割合が高い。	・毎日の宿題などにきちんと取り組んでいることを強みとし、継続して取り組んでいけるよう指導を継続する。 ・休みの日の時間の使い方、学習の仕方について家庭とも連携しながら指導をしていきたい。
6年	授業改善に関わる事項	○授業で話し合って課題に向けて情報を集めたり、発表をしたりする活動への意欲が高い。 ●授業で自分の考えを発表する機会があると感じている児童の割合が低い。	・授業でペアやグループなどで話し合う活動を引き続き多く取り入れていく。 ・発表する機会を十分に確保するため、授業の展開の仕方やタイムマネジメントを工夫し、授業改善に努める。
	家庭学習に関わる事項	○休日に、2時間以上家庭学習に取り組む児童の割合が高い。 ●テレビゲームやスマートフォン、携帯電話などのメディアとの接触時間が平日に3時間を超える児童の割合が高い。 ●読書の時間が平日10分未満の児童の割合が高い。	・家庭と連携してメディアルールを決めたり、メディアとの関わり方についての学習を実施したりして、メディアへの接触時間を減らすことができるようにする。 ・本に触れる機会を平日にも増やすために、宿題の中の一つに位置づける。

（4）生活・学習に関する意識調査の結果